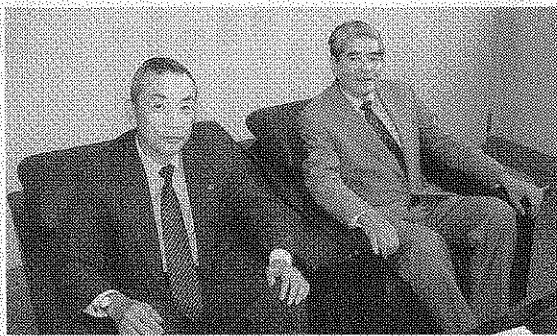


廃食用油からリサイクル始まる

食物油から精製するバイオディーゼル燃料(BDF)。一般のディーゼルエンジンにそのまま使え、排出ガス中の硫黄酸化物(SO_x)や黒煙が少ない環境負荷の低い燃料だ。道内でも廃食用油からリサイクルするBDF導入が、企業単位で始まっている。環境意識の高まりとともに、機器メーカーが小型製造プラントの販売に乗り出したこと、近年の軽油高騰で製造コストが軽油価格に近づいたことも追い風だ。温暖化対策やリサイクル促進、さらには高騰する軽油の代替製品として期待されるBDF。その将来性、企業や現場単位での導入に向けた留意点を取材した。



北海道バイオディーゼル研究会の事務局。山本代表幹事(右)と島津事務局長

バイオディーゼル燃料 道内BDFの動向

■上 ■ 2006.10.11(木)

BDFは、ナタネやヒマワリ油など植物油に、メタノールを加え、カゼイソータなどの触媒を投入することで発生するエステル脂肪酸メチルエステルを指す。農作物を発酵、蒸留して作るガソリンの代替燃料バイオエタノールと異なり、軽油と似た物性を持つ。

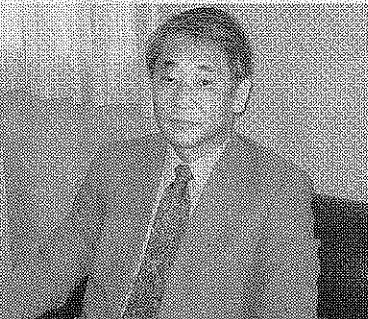
道内BDFに詳しい北海道バイオディーゼル研究会(山本義弘代表幹事)によると、2000年以降道内でも自治体をはじめ、企業単位で製造し、販売や自社利用に取り組み企業が増えているという。

同研究会は西松建設札幌支店に事務局を置く。「イメーリアップ」やビジネスセンターを狙った活動として2年前に立ち上げた。(事務局員・島津新一西松建設札幌支店営業課長)というが、その後道内のBDFに関係する団体や企業、個人らが多数参加し、現在では道内の情報発信の中心的存在になりつつある。

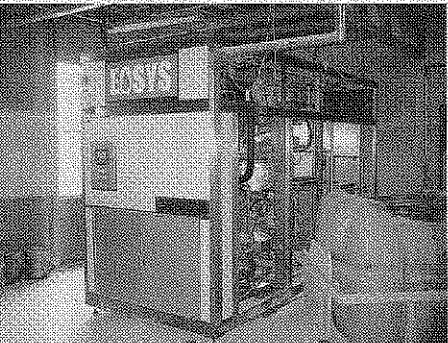
今年、同研究会と新十津川町の協力を得て、徳富タムを施工する西松・地崎・勝村共同体が、建設現場としては、初めてBDFを導入した。事務所と15km離れた現場を結ぶマイクローバス2台の燃料に利用する。

現場事務所には小型のBDF製造プラントを設置し、100ℓの廃食用油から、約90ℓのBDFを製造する。原料は、資源のリサイクルに力を入れる新十津川町の協力で、給食センターや老人福祉施設などで使用済みの油を回収して利用する。その量は年間6千ℓに達するという。

島津事務局長は「地球温暖化対策や、廃食用油のリサイクル促進といった環境影響負荷の低減が目的だったこともあり、製造コストは高め」と話す。現場事務所職員がプラントを操作



廃棄物収集車への導入について説明してくれた石井北清企業常務



北清企業がセベックから導入したBDF製造プラント「イオシス」。1日最大900ℓを製造する

ディーゼル車に使用可能

高騰軽油の代替、環境負荷低減も

同研究会は西松建設札幌支店に事務局を置く。「イメーリアップ」やビジネスセンターを狙った活動として2年前に立ち上げた。(事務局員・島津新一西松建設札幌支店営業課長)というが、その後道内のBDFに関係する団体や企業、個人らが多数参加し、現在では道内の情報発信の中心的存在になりつつある。

現場事務所には小型のBDF製造プラントを設置し、100ℓの廃食用油から、約90ℓのBDFを製造する。原料は、資源のリサイクルに力を入れる新十津川町の協力で、給食センターや老人福祉施設などで使用済みの油を回収して利用する。その量は年間6千ℓに達するという。